

令和2年度学校評価計画

学校名		佐賀県立佐賀商業高等学校	
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領を見据え、学科の特性を生かした授業内容の改善</li> <li>・安全安心な学校として、交通、防犯などを含むモラル意識の向上</li> <li>・指導力向上のための研究授業や相互授業参観などの推進</li> <li>・地域・保護者との連携協働による生徒の育成</li> </ul>		
2 学校教育目標	「夢実現、燃える佐商!」「新たなる伝統を!」のスローガンのもと、グローバル化や高度情報化が進む地域社会・国際社会に貢献できる商業人として、必要な知識と技術を習得させ、社会に必要なマナーやモラルを身に着けさせるとともに、何事も自ら考え行動できる生徒の育成を目指す。		
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・志を高く持ち、その実現に向けて努力できる生徒の育成</li> <li>・グローバル社会の課題や高度情報化に対応し、社会に貢献できる商業人の育成</li> <li>・高い規範意識やモラル・人権意識の向上と信頼される人材の育成</li> <li>・生徒の可能性を引き出す教職員の指導力向上</li> </ul>		

4 重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目

評価項目	重点取組		具体的取組
	取組内容	成果指標(数値目標)	
●学力の向上	○新学習指導要領を見据えた授業の推進	○教員の授業力向上のための相互授業参観の実施(各教科年間に1回以上)	・11月に校内授業参観日を設け、教科代表の授業を参観し、感想などを交換して授業づくりに生かす。 ・調べ学習・発表等を充実させ、主体的な学びを重視した授業を計画・実践する。
	○家庭学習時間の確保と学力向上	○家庭学習時間の確保(目標:平日1時間30分)	・自己の将来の目標を意識させ、日課表で日々の生活を振り返らせる。 ・学習意欲喚起のため学習用PC活用法を研究する。 ・生徒の意欲を高めるため、年間を通して小テスト(漢字、英単語)を実施する。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○スクールカウンセラーの積極的活用 ○多様性を認め合える人権教育 ○図書館の来館者数、貸出冊数の増加	・スクールカウンセラーによる講演会及びカウンセリング後のコンサルテーションを充実する。 ・心の健康調査を5月に行い、生徒の心の状況を把握しスクールカウンセラーと情報共有して指導する。 ・HR活動で人権に関する学習や人権教育講演会を開催する(5月、12月)。 ・環境整備、情報提供、蔵書の充実を図る。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○教育相談と学年団との定期的な情報交換(各学期1回) ○佐賀商業高校いじめ防止基本方針に則った未然防止及び早期対応と再発防止	・ハイパーQU検査を年1回実施する。 ・教育相談月間(4月・9月)や長期休業前後の個人面談を実施し、いじめや悩みなどの早期発見や早期対応に努める。 ・いじめ防止強化月間(5月・12月)で啓発活動を行う。
	○モラル教育の強化 ○各学科・教科における情報モラル教育	○モラルアンケートで「できる」の割合90%以上	・年間2回、モラルアンケートを実施し、自己チェックによりモラルの向上を図る。 ・商業科・情報管理部・生徒指導部が連携してアンケート作成・実施及び結果分析をし、課題に対応する。 ・情報モラル教育では、関係外部機関との連携による講演会を実施する。
	●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ●「安全に関する資質・能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える生徒90%以上 ●生徒の交通事故を0(ゼロ)にする。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限の遵守	・定時退勤日(月曜)の設定と掲示や口頭による啓発。 ・長期休業中における学校閉庁日の設定。 ・学校基本方針に沿った部活動の活動時間および休養日の徹底。
	○有給休暇の積極的な取得推進と教員の意識改革	○有給休暇の取得を年間14日以上	・有給休暇を取得しやすい職場環境づくり。 ・校務システム(メッセージ機能)やメール会議を活用した情報共有による放課後会議の削減。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組		具体的取組
	重点取組内容	成果指標(数値目標)	
○活力ある学校づくり	○生徒の進路実現に向けた3年間を見通した系統的な指導	○3年生の進路確保	・就職指導、進学指導両面について、これまでの取組内容を吟味して、各学年で取り組む内容を整理し直す。 ・必要に応じて学年会議に進路指導部から参加し、学年・進路間の連携を図る。
	◎志を高める教育	○生徒の学校生活充実度・満足度を85%以上	・生徒会の各種委員会が自ら課題を設定し、学校活性化のために具体的に取り組む。 ・全校生徒に対して学校生活に関するアンケートを実施し、要望点を集約し、積極的に改善に向けて努力していく。
	○各学科の特色を生かした取組の推進と広報	○学科の特色づくりのための外部講師の積極的利用と国際交流の推進  ○情報処理科の長期的展望の構築	・グローバル人材育成に関する県のプロプログラムや機関を活用し、外部講師との授業プログラムを組む。 ・情報処理科担当者で定期的に会議を行う。専門学校等の外部講師を活用し、高度な技術を学ぶプログラムを組む。 ・海外研修への情報提供と積極的な参加を呼び掛ける。国際交流を積極的に受け入れる。 ・各学科の特色(特に情報処理科)を明確に示し、情報発信・広報を強化する。